

留学先決定に至るまでの経緯

苅田 裕也

2016年6月

UC Berkeley の Biophysics Graduate Group に進学する苅田裕也です。船井情報科学財団への報告書の第一回目として、留学先決定に至るまでの経緯をまとめます。

1 留学を思い立つまで

小さいころから漫画を読むことが好きでした。スポ根ものの少年漫画では、ほぼ必ず主人公が海外に挑戦します。そんな漫画に育てられた自分は当然、世界の舞台で活躍することに憧れました。ですが、現実の留学となると話は別です。大学生になっても英語力を言い訳にして、挑戦を先延ばしにしてきました。

留学を考えはじめたのはちょうど一年前です。当時は自分が進みたい分野を決めるにいっぱい、同期が GRE Subject に向けて授業中ががしがし内職している様子を見ても、留学を選択肢に考えていること自体すごいなあと感心するばかりで、まったく他人事でした。しかしその後、やっとこさ進路に決めたはずの研究室の教授が近々退官することに気づいてしまいます。そのあたりから修士を取得した後に海外大学院へ留学することを考えはじめました。

最終的に学部卒での出願を決めたのには、いろいろな人に出会って刺激を受けたことが効いています。5月の文化祭では MIT に進学する先輩とたまたまお話できました。夏に研究室に来ていた中国人の留学生からは、東大と併願して出願することを薦められました(彼も東大を併願し、結局 Caltech に進学するようです)。3年次のゼミの教授は、海外の学生との Summer School に連れて行ってくれました。日本の指導教授は、学年の遅れを指摘してやんわりと学部で出願することを後押ししてくださいました。かくして私は覚悟を決め、あわあわと留学への道を歩きはじめたのです。

2 出願先の決定

出願先の大学院は日本の院試がひと段落してから、奨学金の出願にむけて調べはじめました。8月の後半からになります。しかし、学部4年生の身では、この先5年間を懸けてやりたい研究など、そうそう決まっていけないものです。出願先選びは難航し、9月に入っても、出願を決めていたのは Princeton (Quantitative and Computational Biology) と UC Berkeley (Biophysics) の2つだけでした。この頃には東大の大学院に合格していたため、東大と比べても迷わず行きたい大学、とい

う基準で出願先を選ぶことにしました。結局、5校に出願しましたが、12月までずっと迷っていました。最後の1校は締め切りの2週前に追加を決めたほどです。各大学の研究室を調べるだけでもかなり時間がかかるので、自分には5校の出願が限界でした。実際、締切を過ぎてから出願したかった研究室を見つけることもありました。もっと準備が早ければ、もっと出願していたと思います。

3 出願の手続き

ほとんどの試験は一発勝負でした。TOEFL を7月と9月、GRE Physics を10月、GRE general を11月に受験しました。毎회가ぎりぎりの戦いでスリル満点でした。何とか点数を集めることができたので、ほっとしています。TOEFL 102(R27 L28 S20 W27), GRE V148 Q170 W 3.0, GRE Physics 990 です。おすすめの対策教材は、単語学習用の iknow! と、Subject 対策の Physics GRE Prep になります。

推薦状は理論ゼミや実験で指導をいただいた先生方をお願いし、SoP は面倒見の良い研究員の方に添削いただきながら準備をすすめました。推薦状も SoP も、実際の研究経験があるかどうかで、質が大きく変わります。自分の場合は、卒業研究に加えて、学部2年のころに UROP(Undergraduate Research Opportunity Program) で研究できたことが大きな強みになったと感じています。

4 面接

面接は UC Berkeley とだけ行いました。面接官から個別に連絡があり、それぞれと Skype 面接の日程を調整しました。時差のため朝5時くらいからの面接が基本でしたが、騒音が少ないのでかえって良かったです。面接官は事前にわかっていたので、youtube 等で講演の動画を探し、発音と研究内容の予習をしました。Skype 面接で注意すべきは、面接官の目を見ないことです。見るべきは web camera のレンズになります。自分は顔が書いてある web camera を使っていました。かわいいものだと緊張もほぐれます。上手な英語ではなく、伝わる英語を意識しました。



図1 かわいい web camera.

5 留学決定

3月までには4校の不合格が決まっていました。UC Berkeleyの合格通知が届いたのは4月5日です。最後までハラハラドキドキを楽しむことができたのでお得でした。留学は決まりましたが、これからの研究が本番です。スポ根よろしくストイックに努力するつもりですが、陽気にもりもり頑張ります。半年先の状況がまったく想像できないというのは新鮮で、不安も大きいですが楽しみです。

6 これから留学を目指す方へ

自分は半年前からのスタートという無謀な挑戦でしたが、なんとか滑り込むことができました。学部生で準備時間を理由に迷っている人がいましたら、思いきって出願することを薦めます。しんどいですが、追い詰められた方が効率良く勉強できるものです。修士卒で再チャレンジすることになったとしても、出願の経験があると大学側が何を求めているかわかるようになります。再出願までにすべきことが明確になるはずです。私の場合は3月末の交流会でもひとり合格ナシの状態でしたので、益田理事長がそのように慰めてくださいました。

時間に余裕がある方には、リサーチインターンやラボでのアルバイト等で、研究経験を積むことを薦めます。特に、海外でリサーチインターンができれば、強力な推薦状も手に入ります(まず語学力が必要になりますが)。経験が積めれば、次に時間をかけるべきは研究室選びだと思います。学部4年生の春休みか夏休みくらいに、実際に現地で見学させてもらうのがベストに感じます。自分は現地を訪問する時間をとれなかったのが、この部分が一番の不安要素でした。

何はともあれ、出願しなければ合格しません。一度きりの人生ですので、ためしに道を踏み外して変えてみるのも一興でしょう。